

再評価調書

事業名	一級河川天見川河川改修事業			
所在地	河内長野市喜多町地先～河内長野市大字石仏地先			
再評価理由	事業採択後 10 年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	<p>天見川では流域内において大規模な開発などの多くの宅地開発が進み、急激に市街化が進んでいる。しかしながら、本河川の河積が小さいため昭和 57 年や平成 7 年の豪雨において度々宅地等への浸水被害が発生しており、早急に改修を行う必要がある。</p> <p>また本川下流域では河川の蛇行により著しく流下能力の低い区間があり、河川の直線化(ショートカット工事)等を行うなどの治水能力の向上を図り、100年確率降雨に対応できる改修事業を平成9年度から進めている。</p>		
	内容	<p>河川改修 L = 3.65km 道路橋 10ヶ所 水路橋 2ヶ所</p> <p>計画流量 700m³/s (100年確率)</p>		
	事業費	<p>全体事業費：約 259 億円 (約 259 億円) うち投資済事業費：約 22 億円</p> <p>(内訳) 用地費約 55 億円 (約 55 億円) (内訳) 用地費約 9 億円</p> <p> 工事費約 204 億円 (約 204 億円) 工事費約 13 億円</p> <p>() 内の数値は計画時点のもの</p>		
		<p>【計画時点の事業費との変動理由】</p> <p>変更なし</p>		
	維持管理費	<p>約 4 百万円/年</p> <p>(河道部の草刈り等)</p>		
	上位計画	<p>一級河川天見川全体計画 (平成 9 年大臣認可大阪府策定)</p> <p>大阪府都市基盤整備中期計画 (案) 改定版 (平成 17 年 3 月大阪府策定)</p>		
関連事業	特になし			
事業の進捗状況	経過	<p>計画時の想定</p> <p>事業採択年度：H9 年度 事業着手年度：H9 年度 完成予定年度：H32 年度</p>	<p>現時点での状況</p> <p>事業採択年度：H9 年度 事業着手年度：H9 年度 完成予定年度：H32 年度</p>	<p>分析</p> <p>・狭小箇所であるショートカット区間が山間部であったため掘削土量が多く、多大な期間を要したが、現在は下流部が完了し、上流部のショートカット区間に着手している。</p> <p>・残る上流域の施工は、通常の改修区間となり地元の協力も得られることから事業進捗上、特段の課題はない。</p>
	進捗状況		<p>(平成 17 年度末)</p> <p>用地：16%</p> <p>工事：6%</p> <p>(事業費ベース)</p>	
	途中段階の整備効果発現状況	<p>新喜多橋からこもん橋上流までの延長 L = 700m 区間の整備が完了したことから、下流部からこもん橋上流区間までの氾濫防止が図れた。</p>		
	事業進捗に関する課題	特になし		

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	現時点での状況	分析
		<p>100年確率想定時</p> <p>氾濫区域面積 56.0ha</p> <p>浸水家屋数 1,230戸</p> <p>浸水被害実績</p> <p>昭和57年8月 台風10号及び低気圧に伴う豪雨</p> <p>浸水面積：2ha 浸水戸数 床上浸水：26戸 床下浸水：13戸</p> <p>浸水被害実績</p> <p>平成7年7月 梅雨前線に伴う豪雨</p> <p>浸水面積：3ha 浸水戸数 床上浸水：98戸 床下浸水：24戸</p>	<p>100年確率想定時</p> <p>氾濫区域面積 33.9ha</p> <p>浸水家屋数 566戸</p> <p>氾濫水量 浸水水量</p> <p>河川堤防から溢れる水量を計算し、それが堤内地に氾濫した場合の範囲を更に解析して氾濫面積を求める。</p> <p>氾濫水量 = 浸水水量</p> <p>・下流区間の完成により大幅に被害軽減効果が図られている。</p> <p>・残事業区間についても改修により、大幅な被害軽減の効果が得られる。</p>	<p>・氾濫区域面積等について、計画時と現時点では計算手法が異なっている。</p> <p>(計画時)</p> <p>想定される河川水位を水平に堤内地に延長し、地盤高からの差により氾濫面積を求める。</p> <p>(現時点)</p> <p>河川堤防から溢れる水量を計算し、それが堤内地に氾濫した場合の範囲を更に解析して氾濫面積を求める。</p> <p>・下流区間の完成により大幅に被害軽減効果が図られている。</p> <p>・残事業区間についても改修により、大幅な被害軽減の効果が得られる。</p>
	地元等の協力度	<p>・昭和 57 年災害を契機に地元自治体や住民の要望での事業計画であり、地元協力のもと事業を推進する。</p> <p>・平成 7 年に新たに浸水被害が発生したことから、地域住民より早期の改修が望まれている。</p>	<p>・事業に対する地元の協力を十分に得ながら、事業の進捗を図っている。</p>	<p>・事業に対する地元住民の認識は高く、工事及び用地買収に積極的に協力であり、順調に推移している。</p>

		計画時の想定		現時点での状況(変更点)	分析
			備考		
事業効果の定量的分析	費用便益分析	下記、代替指標による		<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 3.67 総便益 B = 513 億円 総費用 C = 140 億円 ・ 費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案)(平成17年4月) ・ 便益内容： 資産被害抑止効果 ・ 受益者： 周辺住民、農業従事者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定氾濫区域内において近年急激に宅地開発等の都市化が進んでおり、資産が集中しているため、十分な費用対効果が得られる。 ・ 未改修区間を改修することにより、洪水被害を軽減できる。
	その他の指標(代替指標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ C / B = 13.6 年平均被害軽減額 B = 19 億円 総事業費 C = 259 億円 	平成9年天見川全体計画策定時における事業効果分析指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 算出根拠：治水経済調査要綱(平成7年単価) ・ 便益内容：資産被害抑止効果 ・ 受益者：周辺住民、事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画時の事業効果分析指標(代替指標) C / B については、C：総事業費をB：年平均被害軽減で割ることによって総事業費が年々で元がとれるかを表している。(国の事業採択基準：C / B 17) ・ これらの代替指標によっても、十分な事業効果が得られる。 	
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水被害の軽減(生命や財産) 河川改修により、治水安全度が向上し、府民の生命財産を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者：周辺住民 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未改修区間を改修することにより、洪水被害を軽減できる。
	活力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流拠点の形成(良好な親水空間) 旧河川敷の景観を活用し、総合運動場と一体とした親水河川公園として位置付け予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者：周辺住民 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショートカット区間の整備により生み出される空間を利用し、河川公園の整備など周辺地域と一体となった整備を行い、府民の活力ある交流拠点の形成の整備を図る。
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観(周辺と調和した水辺環境) 周辺地域の自然環境に配慮した改修を行い、遊歩道などの親水区間を形成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者：周辺住民 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺地域の自然環境に配慮した環境保全ブロックを使用した護岸整備を行い、また、堤防には地元市の協力による遊歩道整備を行うなど、周辺と調和した水辺空間の形成を図る。
	その他			同左	
自然環境等への影響と対策		(影響) 天見川には魚類が生息しており、工事に伴う水質悪化が懸念される。また河道内の植生は非常に少ないが、河道改修による影響が懸念される。 (対策) 水生生物に与える影響を極力少なくするため、施工に伴う濁水の発生には十分に注意を払い必要に応じ対策を講じることとし、河川内の整備については、護岸に環境保全ブロック等を使用して植生回帰を図るなど、自然環境に配慮した川づくりに努める。		同左	
その他特記すべき事項					